

会員各位

一般社団法人日本品質管理学会
会長 二橋 岩雄

日本品質管理学会 第172回シンポジウム AI品質マネジメント最前線

日本品質管理学会では、この度 Zoom 会議室を利用して下記の要領にて第172回シンポジウムを開催いたします。

会員・会員外を問わず多数ご参加くださいますようお願いいたします。

日 時：2021年12月10日（金）9：00～12：00

会 場：Zoom 会議室（オンライン）

《概 要》

現在急速に発展しているAIに対しては、従来のITシステムでは解の出せなかった複雑な課題を解決することが期待されています。一方で、AIには従来のITシステムにはない、AIの学習データ等に起因する不確かさが存在し、このようなAIの不確かさが事故や倫理的問題を起こすなど大きなリスクを生じえることが懸念されています。このような状況で、AIのような不確実性をはらむ新技術の品質を確実に向上させるプロセスをつくり、AIのリスクを確実に低減するように、マネジメントしていくことが求められています。

本シンポジウムでは、安全ガバナンス、AI品質、国際標準、法規などの分野の最前線の専門家が一堂に会して、AI品質マネジメント分野の人的ネットワークを形成し、安全で信頼性の高いAI利活用を実現するためのAI品質マネジメントのあるべき姿を議論し、優れたAI品質をつくりこむためのAI品質マネジメントの構築に資する具体的な提言をすることを目指します。

《プログラム》

司会：デンソー 平田 雄一

時 間	内 容	(敬称略)
9:05～9:15	開催挨拶	日本品質管理学会 若林 宏之
9:15～9:35	講演（1） Society5.0における安全ガバナンスの在り方	情報処理推進機構 高橋 久実子
9:35～9:55	講演（2） AIの品質における難しさとアプローチ	国立情報学研究所 石川 冬樹
9:55～10:15	講演（3） 国際標準の議論に見る AIによる基本権侵害への対応	日本電気 江川 尚志
10:15～10:35	講演（4） AIの「品質」に関する法的・倫理的論点（仮）	世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター 工藤 郁子
10:35～10:50	休 憩	
10:50～11:55	パネルディスカッション AI品質マネジメントのあるべき姿	司会：平田 雄一 パネラー：桑島 洋（デンソー） 上記講演者
11:55～12:00	閉会挨拶	

申込方法：ホームページからお申し込みください。

<https://jsqc.org/172symposium/>

参加費：会 員 4,400 円（締切後 4,950 円）
（税込） 非会員 8,800 円（締切後 9,900 円）
準会員 2,200 円， 一般学生 3,300 円

申込締切：2021年12月3日（金）

その他：Zoom 会議室の URL は入金確認後、開催 1 週間を目途にご連絡をいたします。

《お知らせ》

継続的専門能力開発（CPD）の実績を証明いたします。それぞれの機関の様式に従い、**記入済の書式と本人であることが確認できる書類を前日までに PDF ファイルでお送りください**。終了後、証明済みのファイルを返送いたします。

手数料 会 員：無料 賛助会員：5 名まで会員扱い 非会員：1 通につき 1,000 円
※ CPD の証明時間は 3 時間です。

【聞きどころ】

講演(1) 『Society5.0 における安全ガバナンスの在り方』 高橋 久実子 氏
(独立行政法人 情報処理推進機構 専門委員)

フィジカル空間とサイバー空間を融合させる先進テクノロジーを活用する Society5.0 において、複雑で変化の速い先進テクノロジーを生かすためには、先進テクノロジーがもたらす残留リスクを受容・共生する仕組みが必要となってきます。また、様々なシステム同士が繋がることで全てのリスクを事前に予見することが極めて困難な時代に突入していきます。このような時代において、安全面を含めた不確実性をはらむ新技術に対する社会的受容のあり方はどのようなべきか。Society5.0 における安全確保を実現するためのあるべきガバナンスを「安全ガバナンス」と称し、現代のいくつかのトレンドや検討ポイントを紹介します。

講演(2) 『AI の品質における難しさとアプローチ』 石川 冬樹 氏
(国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 准教授
先端ソフトウェア工学・国際研究センター 副センター長)

機械学習技術を用いた AI システムの産業応用への追求が盛んです。しかしデータを用いた訓練により機能を実装するという特性により、従来ソフトウェアとは異なる大きな不確かさがあり、品質の管理や保証における大きな課題となっています。本講演では国内における 2 つのガイドラインを中心に、従来ソフトウェアとの違いを整理しつつ AI の品質に対する考え方を解説します。

講演(3) 『国際標準の議論に見る AI による基本権侵害への対応』 江川 尚志 氏
(日本電気株式会社 標準化推進部 シニアエキスパート)

AI はバイアスを持つ場合がある、という議論をきっかけに、AI は基本権を犯し得る存在との認識が広がり、内閣府「人間中心の AI 社会原則」を始め国内外で様々な原則が定められています。この原則を技術者が現場で使える形にするため、ISO/IEC を始め国際標準化機関ではリスク管理などプロセス系の標準、バイアスに関する概念を整理した TR など様々な文書を作成しつつあります。この現状を概観いたします。

講演(4) 『AI の「品質」に関する法的・倫理的論点（仮）』 工藤 郁子 氏
(世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター プロジェクト戦略責任者)

AI システムを含む機械学習分野において、「品質」に関する定義や理解の不一致を改善し紛争を予防する努力が様々な組織で進められています。関連するガイドラインやハンドブックなどの成果物が発表され、国際標準化も目指されています。もっとも、従来の IT システムですら、発注側と開発側の間で品質をめぐる紛争が今も発生しており、法学上の検討が行われているところです。本報告では、従来の IT システム開発紛争に関する法的・倫理的議論を踏まえつつ、AI システムの品質マネジメント上の留意点について話題提供します。また、AI 公共調達に関する国際動向についても紹介します。